

# 令和5年度 小野小学校 学校自己評価報告書

達成度評価： A=目標達成 B=目標に近づいた C=まだ残念な状況 D=次年度の大きな課題

達成値=評価4と3の合計の割合(%) 網掛けは相対的に低い項目

評価項目	番号	評価内容	児童達成値	保護者達成値	自己評価達成値	達成度評価
（徳育） （えいご） （こども）	①	子供たちとの対話を大切に、温もりや居場所のある学級づくり、自己肯定感を高める言葉かけや関わりを継続している。	90%	89%	100%	B
	②	「ふわふわ言葉や「くん-さん-ちゃん付けの呼び名」などの定着に努め、子供同士の関係が和やかになる指導を継続している。	60%	86%	94%	
	③	人の痛みや喜びに共感する心、人の厚意に感謝する心など、「他者との共生」を意識した指導を継続している。	82%		100%	
	④	あいさつ・返事、素直な「ありがとう・ごめんなさい」、時間や約束を守るなど、人としてのマナーの指導を継続している。	82%	89%	100%	
	⑤	後片付け・無言そうじ・トイレスリッパ・廊下歩行など、公共のルールの意識を高める指導を継続している。			83%	
（学習） （こども） （こども）	①	めあてとまどめを大事にして書く活動を重視し、端末やデジタル教科書を積極活用するなど、「主体的な学び」を意識した授業づくりを進めている。	86%	87%	94%	C
	②	ペアやグループなど、学年に応じて協働的な交流活動を取り入れた授業を行っている。	83%		88%	
	③	遅れがちの子、早く終わってしまう子など、個別の支援や手立てを要する子への対応を行っている。	83%	62%	100%	
	④	「よい子の筆箱」などの学習準備、授業の終始、姿勢、聞く話すの約束などの学習規律について定着のための手立てを継続している。	72%	71%	88%	
	⑤	「家庭学習時間＝学年×15分」を共通理解として、「自学」「家読」を含めた家庭学習が習慣づくように、発達段階に応じた指導や励ましを継続している。	64%		94%	
（体育） （こども） （こども）	①	感染症予防（うがい・手洗い・換気）の指導を継続している。	86%	90%	100%	B
	②	登下校の交通安全や校内事故防止など、安全意識を高める指導を継続している。	90%		100%	
	③	望ましい生活習慣（早寝早起き朝ご飯・洗顔と歯磨き・メディアコントロール等）の指導を継続している。	65%	85%	83%	
	④	体力づくりの活動（体育・行事など）や外遊びについて、励ましや指導を継続している。	74%	89%	100%	
	⑤	給食指導を中心に、望ましい食習慣をつくる食育指導を継続している。	76%		88%	
と家庭や 連携	①	連絡帳・電話連絡・保護者面談・家庭訪問などにより、家庭との相互理解・連携を図っている。保護者もそう感じている。		92%	100%	A
	②	各種たよりや学年・学級メールなどで、学習や諸活動の様子について保護者に発信、情報提供することができている。保護者もそう感じている。			94%	
	③	家庭学習・家庭読書・メディアコントロールなどのよりよい習慣づくりについて、継続的に保護者に働きかけることができている。保護者も共に取り組んでいる。		80%	89%	
	④	育友会の役割や地域との関わりの大切さを認識し、コロナ禍の中でも可能な範囲での連携と協力を努めている。保護者もそう認めている。			90%	
学校 連携	①	学校教育目標、めざす児童像、重点努力事項等を理解し、それを受け止めた学級経営や教科指導、分掌業務に取り組んでいる。そのことが保護者にも伝わっている。		90%	100%	A
	②	分掌部会で複数人の知恵を出し合うなど、チームの連携、組織力の向上を意識して業務に取り組んでいる。協力的な組織であることが保護者にも伝わっている。		81%	100%	
	③	小野地区の特性理解に努め、地区のよさ・特色・人材を生かした教育活動を、可能な範囲で積極的に取り入れている。			94%	
	④	清掃指導の充実や整理整頓、掲示物の整備や工夫、学習園やプランターの活用など、環境整備に取り組んでいる。そのことが保護者にも伝わっている。		88%	95%	
チー ム小 野	①	「どの子も愛し、どの子も伸ばす」という教育愛と使命感を持って職務に努めている。			100%	A
	②	「同僚とともに研鑽に励む」「互いに学ぶ」意識で研修に取り組み、授業に生かそうとしている。			100%	
	③	常に人に見られていることを意識して言動に留意し、不祥事とは無縁の「信頼される教師」であるように努めている。			100%	
	④	管理職も含めた職員間の「報・連・相」を意識した連携協力と、一体感と同僚性が感じられる職員集団づくりに、自分自身も意識して参画している。			100%	
その他		児童「楽しい」・保護者「通わせたい」・職員「働きやすい・働きがい」の満足度	82%	85%	100%	A

## 学校自己評価考察（成果と課題）

○児童・保護者・職員のアンケート結果は、全体としておおむね良好な数値といえる。  
 ○職員の自己評価から、職員の共通理解のもと、経営方針に則った学校運営が推進されていることがうかがえる。  
 ○児童への言葉かけ、他者との共生、マナー指導について、共通実践がなされていると感じる。  
 ○「チーム小野小」の全ての小項目で、自己評価が100%達成されたことは、職員の一体感と教育に対する思いの向きが揃った体制が整っていることを感じる。  
 ○職員の働きやすさ・働きがいの満足度100%達成は、未だ十分とは言えないが、本校の働き方改革・働きがい改革が徐々に良い方向に進んでいることを示している。  
 ●学校としては努力しているが、学習の準備、家庭学習の取組については児童や保護者の達成感を得るまでには至っていない。  
 ●例年と同様ではあるが、個別支援（知-③）の項目は「分からない」の回答が多く、学校の努力が保護者に伝わりにくい。  
 ●望ましい生活習慣の形成については、児童自身が自分の生活を振り返り、反省の気持ちをもって取り組む項目も多い。

## 次年度への改善策

□心の教育を今後も学校経営の根幹に据えて、豊かな心を育む教育活動(思いやり、言葉遣い、あいさつ、マナーなど)についてを継続し強化を図っていく。  
 □伸ばしたい学力について、データを分析しながら職員で共有し、有効な指導法を実践しながら学力向上を図っていく。  
 □学校のスタンダードを保護者とも共有し、学習準備を整えてスタートラインをそろえるとともに、児童の活躍の場を保障するための学習規律を確立する。その指導の継続と強化を図る。  
 □平日の家庭時間の自律的コントロール、学年×15分の家庭学習時間の確保については、今後も育友会・保護者との連携を図り、一層積極的な指導に当たっていく。  
 □体力づくりに関わって児童の実態から体育の学習を中心に、「柔軟性」と「筋パワー」「跳躍能力」を高められる運動を取り入れていく。

## 学校関係者評価委員の意見

○「6年生を送る会」を参観して、送る会の雰囲気や児童がおらず、素直であるという印象を受けた。職員のかみ細かい指導の表れである。これからは、学校は地域との協力を大事にして子どもを育てていただきたい。地域も、学校の力を借りて子どもを育てていく。  
 ○ICTを活用した学習方法や対話的な学習内容に対する、児童、保護者及び職員の評価が同じ傾向にある。小野中に入学してきた生徒を見ていると、人間の成長を感じている。今後も、活性化した小野小、そして小野中になることが期待される。  
 ●学童での言葉遣いがよくなっている。一方、児童評価にあるように「ふわふわ言葉」「くん、さん、ちゃん付けの呼び名」などの定着に課題がある。正しい言葉、相手を思いやる言葉を粘り強く指導を続けることが必要である。育つ環境も影響しており、学校、家庭、地域が一体となって指導していくことが求められる。  
 ●不祥事について、自分事として捉え、声に出すことが遠慮がちにならない雰囲気を今後もつくっていただきたい。

## 関係者評価を受けて

□小野小における取組のよさである学校、家庭、地域が一体となる教育活動を今後も継続していく。一小一中であることも連携の力を強めて児童の育成に努めることができる強みとなる。  
 □ICT教育機器の活用については、今後も職員研修を重ねながら学習効果を高めるように活用の仕方について研究していく。授業での活用、家庭での活用の仕方などについて方策を考えていきたい。  
 □言葉や大切に扱う子どもの育成に継続して取り組む。年間を通した連携した取組を行っていく。  
 □不祥事根絶については、職員の高い意識を保ちながら取組を継続する。また、子どものために誠実に努力を重ねる教師集団として教育活動を高めていく。